

「コウノトリの里」にふさわしい環境づくりをめざして  
子どもたちの農業体験を大推進し、  
地域ぐるみで「ふるさと」を維持

千葉県野田市、野田市東部ふるさと保全会、船形水辺環境保全会、野田市あおいエコ・ネット、  
取材・文／宗像幸彦 撮影／多田昌弘 写真提供／東葛北部土地改良区



地域の子どもたちが作った、なんとも可愛らしい案山子が害獣から作物を守っている。



(上)左から土地改良区の渡辺均さん、内田和重さん、野田市東部ふるさと保全会の栗原英雄さん、野田市あおいエコ・ネットの古橋与四己さん、船形水辺環境保全会の渡辺隆さん。(右)地域の子どもたちが田植えや稲刈りを体験する田んぼの学校。(左下・右下)一面の緑が美しい広大な受益地。景観形成のための植栽もなされている。

都市部に近く恵まれた環境ゆえ、  
ふるさとの意識が希薄になっていた

千葉県の最北端にあり、茨城県、埼玉県と隣接する野田市。県のPRマスコミキャラクター「チーバくん」のちょうど鼻先にあたるこの地域は、利根川と江戸川が分流するところであり、平らな地形を活かした水田地帯が広がっています。また、国の特別天然記念物であり生物多様性の象徴にもなっているコウノトリを飼育・放鳥することで、環境に配慮した町づくりをPRしています。

この地で昭和26年に設立された東葛北部土地改良区は、かんがい排水事業やほ場整備事業、地盤沈下対策事業などを推し進めてきました。

ところが、近年は農業者の高齢化や担い手問題が深刻化するにつれて集落機能が低下したため、農家だけに頼らない、住人全体による地域資源の保全管理や環境保全の必要性が叫ばれてきました。

「首都圏40キロ圏内で、流通にも恵まれているため、若い人や子育て世代のほとんどが非農業の勤め人。ふるさとの意識も希薄になっています。われわれと

しては土地改良区の組合員である農家の方々への支援に加えて、地域支援の一環として住民の方々の直接的なサポートを目指したいという思いがありました」と語るのは、東葛北部土地改良区の渡辺均さん。この地域では平成19年度から「多面的機能支払交付金」全向上対策、同26年度から「多面的機能支払交付金」による活動が行われており、東葛北部土地改良区では受益地内の次の3つの活動組織の事務局機能を委託され、バックアップを行っています。

- 野田市東部ふるさと保全会（平成24年に広域化、235ヘクタール、782世帯）
- 船形水辺環境保全会（平成20年に広域化、201ヘクタール、457世帯）
- 野田市あおいエコ・ネット（156ヘクタール、235世帯）

体験学習の機会を提供することで  
地域とのつながりが深まった

3組織に交付される「多面的機能支払交付金」のうち、「農地維持支払交付金」は、水路や農道の草刈り、泥上げ、害虫駆除のための芝焼きなどに活用されています。

また「資源向上支払交付金」は、共同活動として水路・農道等の軽微な補修や農村環境保全活動に充てられています。さらに、水路の破損部分の補修、素掘り水路からコンクリート水路への更新、農道路肩・法面の補修、未舗装農道のアスファルト舗装といった施設の長寿命化のための活動にも使われています。

いずれの組織でも特に注力しているのが、農村環境保全活動として実施している地域内における小学校や幼稚園と連携した取り組みです。

「水田耕地を学びと体験の場として、小学生に生き物調査や案山子作り、お米やサツマイモ、大豆、トウモロコシなどの栽培を体験してもらっています。収穫した大豆は具汁として郷土料理に、トウモロコシはポップコーンにして食べてもらうことで、食育の一環にも役立てていただいています」と語るのは、野田市東部ふるさと保全会副会長の栗原英雄さん。

一方、船形水辺環境保全会会長の渡辺隆さんは「子ども会と連携してごみ捨て防止のポスターを制作していますが、郷土の美化という意識が確実に高まっていると感じます」と話します。

野田市あおいエコ・ネットでは、平成30年7月、地区内にある阿部タナゴ池にて「ホテル放流・観察会」を開催しました。250人の親子が参加して、紙コップに小分けされたホテルを池の周囲に放し、幻想的な光が夏の夜を彩りました。

「こうした体験を通して、子どもたちに地元のすばらしさを再発見してもらえれば、これ以上望むことはありません」と会長は古橋与四己さんは話します。「多面的機能支払交付金は、受益地域のみならず、けでなく、土地改良区の存在意義や役割を知っていただくためにも大切な制度。これからの地域と一丸となつて活性化の一助となつていきたい」と、東葛北部土地改良区の渡辺均さんは決意を新たにしました。

「農地維持支払交付金」での取り組み



害虫駆除のための芝焼き、水路及びポンプ吸水槽等の泥上げなど、地域資源の保全向上を目的とした活動を定期的に行う。

「資源向上支払交付金」での取り組み



(左上・右上)農道に設置するゴミ捨て防止ポスターの作成や、サツマイモなどの定植、収穫など、学校教育と積極的に連携。(右下)水田魚道を設置し、環境保全に努めている。

東葛北部土地改良区 昭和26年設立。千葉県野田市の北東部を受益地とし、組合員数3,059人、受益面積は約2,000haに及ぶ。農業用排水施設、農道などの管理を行うほか、環境保全型農業を推進し、地域一体となり資源の維持管理に取り組んでいます。お問い合わせ：04-7129-4013